

地域のために何かしたいと思ったら…【おかざき公益ナビ】リリース

岡崎市内各地の地域課題の解決に取り組む市民活動団体や地域活動団体などの取組を紹介するサイト【おかざき公益ナビ】を開設しました。りたが、地域交流センターや市民活動センターの運営はじめ、これまでの様々な活動支援の経験を踏まえ、ぜひ知っていただきたい取組を紹介します。

特に、これから何か活動を始めたい方や、現在の活動に新たなヒントが欲しい方に参考となる情報がたくさん。今後も随時更新していきます。ぜひ一度ご覧ください！

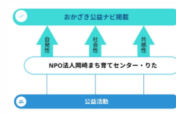
おかざき公益ナビ

または



「おかざき公益ナビ」は、岡崎市内の公益活動を紹介するサイトです。

これから何か活動を始めたい方、現在の活動に新たなヒントが欲しい方に参考となる情報がたくさん。今後も随時更新していきます。ぜひ一度ご覧ください！



拠点運営での取組報告

よりなん

2024.1.27 町内会サミット～まちのミライを語ろう会～

- 総来場者数 52名
- 昨年度、南部支所管内6学区を対象に実施した町内会サミット。今回は市内全域に対象範囲を広げ、町内会活動の課題や運営上の工夫について学びあい、意見交換をしました。
- 話題提供として、昨年度のサミットに参加された上地学区総代会長より、前回の振り返りとそれを踏まえてご自身の総代会運営で改善した点についての報告と、矢作四区が力を入れている「顔の見える関係づくりを図る防災訓練」の活動紹介をしていただいたのち、「担い手の発掘／育成」、「防災」、「IT化」のテーマに分かれて意見交換を行いました。
- 地域活動の主力世代を始め、現役世代から中学生（竜南中学校）まで幅広く働きかけ、各世代の意見や経験を共有し、町内会運営に理解を深め地域自治を自分事として考える機会とすることができました。



なごみん

2024.2.10 地域協働交流会

- 総来場者数 38名
- 協働先
岩津地区婦人自主防災クラブ、認定NPO法人葵の風
- 地縁型市民活動団体が抱える悩みを洗い出し、テーマ型市民活動団体等との連帯のきっかけを生み出すための情報交換会を開催しました。
- 地域の方が日頃考えていることや悩んでいる事を色々な立場の方々と意見交換ができました。今後の取組として、町内ごとの避難指示が分かる具体的な地域災害避難マップを作成したり、実際に歩きながら避難経路や危険場所を確認するなど、災害に関する意識強化の機運が高まりました。



まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

127

2024年5月



農用地保全部会〈となりの田んぼ〉



生活支援部会〈地域支えあい車両〉



施設運営部会〈YAMABIKO青空市〉



地域資源活用部会〈小さなやまがのウォーキング〉

特集

持ちつ持たれつ支え合う 関係づくり -下山の挑戦-

岡崎市の水源となる豊かな森林や自然環境を有する中山間地は市域の約6割を占めています。現在、中山間地では人口減少や少子高齢化、そしてそれらに伴う農林地・地域活動の担い手不足といった課題が深刻になっています。2021年、こうした地域課題に対処し、歴史・産業・文化などの地域資源を守り育てていくため、岡崎市に中山間政策課が創設され、「岡崎市中山間地域活性化計画（オクオカリノベーションプラン2023、以下「オクオカプラン」）」が策定されました。

りたは、2021年より自主事業として下山学区の持続可能な

地域づくりの取組を支援しており（本誌No.114参照）、2022年には、「岡崎市下山学区地域づくり協議会（事務局：岡崎市中山間政策課、以下「地域づくり協議会」）」が創設され、2025年の農村型RMO（地域運営組織：農用地の保全や生活支援を行い持続可能な地域社会づくりを担う）設立に向けて取り組んでいます。

地域づくり協議会2年目の2023年度は、オクオカ活性化拠点下山（旧JA下山支店、通称：YAMABIKO）を拠点として、4つの部会の取組が次々と花開く1年となりました。

まちのミカタ

Litaracy

2024.5 vol.127

発行・編集



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり／

持ちつ持たれつ支え合う関係づくり -下山の挑戦-

2022年度 | 地域づくり協議会の設立と4つの部会の発足

2022年1月に実施した「下山のよりよい未来を考えるワークショップ」を踏まえ、下山学区の地域づくりの活動方針として、「1. 遊休資産の有効活用」「2. 移住支援の仕組み検討」「3. 関係人口の創出」「4. 地域プロモーション」の4つを定めました。

2022年7月には「地域づくり協議会」が立ち上がり、上記4つのテーマに応じて「農用地保全部会」「生活支援部会」「施設運営部会」「地域資源活用部会」が設置されました。りたは本協議会の運営をサポートし、地域の課題に対し具体的にどのような取組をしていくかについて協議を重ね、翌3月に「地域将来ビジョン(案)」を作成しました。



▲活動方針をまとめたかわらばん(2022年3月)



▲地域将来ビジョン(2023年3月)

2023年度 | 部会活動の試験的实施

2023年度は、地域おこし協力隊・成田奈苗さんの着任を追い風に、各部会の活動が次から次へと具体化していく1年となりました。

農用地保全部会では、遊休農地を活用し主に小学生ファミリーを対象に1年を通じた農業体験プログラム「となりの田んぼ」を実施。試験的に定員5組で募集したところ、70組を超える応募があったため、急遽受け入れ態勢を整え(企画・運営はONE RIVERが支援)28組110名を受入れて、多くの方に下山学区の人々の温かさや自然環境の豊かに触れていただく機会となりました。

生活支援部会では、岡崎市社会福祉協議会(以下「岡崎社協」)の仲介により愛知ダイハツ株式会社より軽ワゴン「地域支えあい車両」の貸与を受け、通学や通院、買い物を手助けする移動支援の仕組みづくりを進めています。

施設運営部会では、YAMABIKOを拠点にして、地域内で収穫される旬の農作物を直売する「YAMABIKO青空市」(毎週日曜日10:00-14:00)を開始。また、岡崎社協、匠やの協力を得て、YAMABIKOに地域内外の老若男女が気軽に集い交流を深める場として地域食堂「YAMABIKO食堂」が定期的に開催され、地元の食材を用いたメニューが毎回好評です。

地域資源活用部会では、インスタグラム「YAMABIKO通信」を開設し、地域づくり協議会の取組をはじめ、下山で行われている地域行事などの情報を発信。また、平日に運行されているコミュニティバス「ささゆりバス」の利用促進を兼ねた地域の魅力紹介パンフレットの作成を行っています。



▲「となりの田んぼ」



▲「YAMABIKO食堂」
ミネアサヒを使ったカレーライスは大好評。



▲インスタグラム
(YAMABIKO通信)

2024年度 | 農村型RMOの設立に向けて

このように、地域の方々が中心となり、多くの心強い協力者と連携することで、地域外の人々が下山学区に足を運ぶ機会が幅広く生まれ、下山の「関係人口」が徐々に増えてきています。2024年度は、農村型RMOの設立を目指す3か年の最終年として、りたはこれまで立ち上がった活動の体制や方法を精査しながら、地域内外の人々が関係を深めながら様々な形で地域づくりに関われる仕組みづくりの構築に向けて、引き続き支援をしていきたいと思えます。

まちの今を切り取る！

まちづくりトピックス
—town planning topics—

やはざかん資金調達力強化研修

●資金調達を基礎から学び、活発な活動を目指そう！

お金がないから活動が活性化しない、ポストコロナで団体活動の方向性に悩んでいる、一歩踏み出すことに躊躇している、共感者を増やしたい…など、悩みを抱える団体に向けやはざかんでは全2回の〈資金調達力強化研修〉を行いました。

7月の1回目は赤い羽根共同募金ハッピーリンク助成金の紹介、実際に助成金を獲得したママたちの繋げる防災活動守ろう子どもと赤ちゃんの荒木さんの体験談、そして申請の流れや採択者経験を交えた「助成金のいろは」を学びました。

2月の2回目は岡崎市公益活動補助金の概要説明、スタッフによるプレゼンデモンストレーション、「審査員から伝えたい！良いプレゼンとは？」をテーマに審査員経験豊富な職員三矢が講義を実施。最後の質問タイムでは運営の悩み相談や意見交換もできました。

2回の研修を通して参加者は助成金について知識を得るだけでなく、自団体の現状を見直し、今後の活動にどう活かすかを自ら考える機会となりました。「イベント開催など楽しいアイデアが浮かんだ」「意外と気軽に申請できそう」「資金調達を学んだら広報や仲間づくりも大切と分かった」など、前向きな意見に繋がりました。また、研修内では活動PRの時間も設け、お互いを知る機会を提供し、団体同士のマッチングも実現。団体の課題解決に向けた活動が、より活性化することに期待が高まった研修となりました。



りた's Eye

50団体の協力による事前アンケートでは、半数がイベント開催や物品購入が目的で「お金があればやってみたいことがある」と回答。また全体の約4割が団体運営や継続悩んだ経験があるにも関わらず、その半数が助成金の知識が無いと回答。「皆さんの身近に助成元があるんです！気軽に相談先もあるんです！」と研修を通して伝えなくては！と強く感じた結果でした。

りた職員の思いを伝える！

コラム

~lita column~

むらさきかんでの嬉しいできごと。

先日むらさきかんにS君が久しぶりに来館してくれました。S君は月に3回程、むらさきかんで夏の蒸し暑い日や冬の寒い日も黙々と1人で草取りボランティアをしてくれていた大学生です。1時間ほど作業をした後に一緒におしゃべりをしながらお茶を飲んだ事が懐かしく思い出されました。就職活動で忙しくなるからあまりボランティア出来なくなると聞いたのが5月の初め頃でした。年が変わり2024年2月、S君最近どうしてるかな？なりたいて話していた消防士にはなれたのかな？と丁度思っていた時でした。「就職が決まったので報告に来ました」なんと！わざわざ報告に来てくれました。

消防士ではなく蒲郡市の職員に4月からなるそうで嬉しい報告にスタッフ一同、顔がほころびました。むらさきかんでは、利用団体やボランティアの方との様々な交流があり、思いがけず人生の節目の時期に出会う事もあります。こんな嬉しい出来事が続くように、これからも皆さんの活動のお手伝いや交流ができればなと思えた1日でした。



阪口奈央(むらさきかんセンター長)

この春大学を卒業した娘も、在学中は「KYOTOGRAPIE」などイベントのボランティアに参加していました。当たり前のようにボランティアに参加する学生が近頃増えた気がします。ボランティアでの経験が今後の人生で役立つ事を期待する母です！